平成２６年度

病害虫情報(第４号)７月予報

平成２６年６月３０日
神奈川県農業技術センター

病害虫防除部　ＴＥＬ　0463－58－0333
インターネット　http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f450002/

【内容】

Ⅰ　７月の主な病害虫の防除要否、発生・防除時期、防除の要点 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
【水稲、カンキツ、ナシ、ブドウ、カキ、チャ、露地・抑制トマト、露地キュウリ、ナス、イチゴ、ネギ、三浦野菜(スイカ、カボチャ、メロン)】
Ⅱ 技術情報(1) イネツトムシ（イチモンジセセリ）の防除適期 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
技術情報(2)　いつものチェック忘れずに！（農薬危害防止運動実施中）　・・・・・・・・・・ 14
Ⅲ ７月の病害虫発生予報の内容とその根拠 ・・・ 15
Ⅳ ７月の気象予報(気象庁地球環境・海洋部6月25日発表3か月予報) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

○ 農薬を使用する際は、必ずラベルの記載事項を確認し、使用基準を遵守するとともに飛散防止に努めましょう。
○ 掲載農薬は一般的な場合を想定し、防除効果を優先して選定しています。
○ 収穫期の作物が近接している場合など、個別に残留基準値の設定状況を考慮する必要がある場合は関係機関にご相談ください。

※ 農薬に関する情報は、平成26年6月25日までの農薬登録情報に基づいて記載しています。

Ⅰ　７月の主な病害虫の防除要否、発生・防除時期、防除の要点

【水　稲】

[防除要否] ◎:追加防除が必要　○:通常防除　△:必要に応じて防除　×:防除の必要なし
[発生・防除時期] ━━━ 発生時期　～～～～ 多発時期　…… 感染時期　←━━→ 防除適期

病害虫名	発生予想(平年比)	防除要否	発生・防除時期 7月上	7月中	7月下	8月上	防除のポイント
生育〈生育調査:生産技術部・キヌヒカリ〉	並		《最高分けつ期》		《幼穂形成期》		
いもち病（葉いもち）	並	△	━━ ←━━→	━━	━━	━━	❖発生を認めたら直ちに防除。山間谷戸田等常発地では発生に注意。
ヒメトビウンカ（縞葉枯病）	やや多（多）	◎	━幼虫━ ……	━━ …縞葉枯病	━成虫━ 媒介 ━━	━━ ━━	❖縞葉枯病を媒介。 ❖5月上中旬植えの水田では、ヒメトビウンカの発生状況に応じて追加防除を行う。 ❖5月下旬以降植えの水田で箱施薬を行った場合には、この時期の防除は不要だが、ヒメトビウンカの今後の発生状況に十分注意する。 ※ヒメトビウンカ(縞葉枯病)は、平成26年2月27日に注意報を発表。
セジロウンカ	並	△	━━	━成虫飛来━	━━	━━	
ツマグロヨコバイ	やや多	○	━━	━━	━━	━━	❖萎縮病を媒介。
イネツトムシ	－	○	━幼虫	━成虫 ←━	産卵 幼虫━ ━━	━━ ━━→	❖詳細は「Ⅱ技術情報(1)」を参照。
斑点米カメムシ類	－	－	━━	━(雑草で	増殖)━ ━━	━━	❖斑点米カメムシ類は、畦畔等の雑草で増殖するため、除草を徹底する。 ❖水田への飛び込みを防ぐため、出穂10日前頃からの周辺除草は控える。

病害虫情報 (H26・No. 4) …… 神奈川県農業技術センター

（水稲つづき）

今月の防除

［使用時期］「収穫＊日前まで」を「＊日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

＊農薬使用にあたっては、７日間止め水にし、湛水状態を保つ。	
ヒメトビウンカ セジロウンカ ツマグロヨコバイ	アルバリン 又は スタークル粒剤［7日,3回］3kg/10a 等 ★ 農薬使用のポイント ◉ アルバリン、スタークル：カメムシ類にも適用あり。
イネツトムシ	パダン粒剤４［30日,6回］3～4kg/10a パダンＳＧ水溶剤［21日,6回］1,500倍 スミチオン乳剤［21日,2回］1,000倍 等 ★ 農薬使用のポイント ◉ 上記薬剤を飼料用米栽培に使用する場合は、次の対策に留意すること。 (1)飼料用米について、出穂以降(ほ場において出穂した個体が初めて確認される時点以降をいう。以下同じ。）に農薬の散布を行う場合には、家畜へは籾摺りをして玄米で給餌すること。 (2)籾米のまま、もしくは籾殻を含めて家畜に給餌する場合は、出穂以降の農薬の散布は控えること。
いもち病	（予）オリゼメート粒剤［初発10日前～初発時,14日,2回］3～4kg/10a （予・治）オリブライト1キロ粒剤［出穂10日前まで,45日,1回］1kg/10a （予・治）コラトップ粒剤５［初発10日前～初発時,2回］3～4kg/10a 等 ★ 農薬使用のポイント ◉ 白葉枯病の発生が懸念されるほ場では、オリゼメート(移植活着後及び出穂3～4週間前,14日)、オリブライトを使用する。 ◉ オリブライト：紋枯病にも適用あり。

【 カンキツ 】

［防除要否］◎：追加防除が必要　○：通常防除　△：必要に応じて防除　×：防除の必要なし

［発生・防除時期］ ━━━ 発生時期　～～～～ 多発時期　…… 感染時期　←━━→ 防除適期

病害虫名	発生予想(平年比)	防除要否	発生・防除時期 7月 上	7月 中	7月 下	8月 上	防除のポイント
生育 〈生育調査：足柄地区事務所根府川分室・普通温州〉	やや早		《 果 実 肥 大 期 》				
黒点病	やや少	○	～～～～	～～～～ ←━━	━━ ━━→	━━	❖前回散布後250mm以上の降雨があれば、薬剤散布を行う。
そうか病	多	△	━━	━━ ←━━	━━ ━━→	━━	❖今年の春葉の発病が多い場合に防除する。
かいよう病(中晩柑類)	並	△	━━ ←━━	━━ ━━	━━ ━━	━━ ━━→	❖風傷やミカンハモグリガの食害痕が病原菌の侵入口になる。
チャノキイロアザミウマ	並	○	━━	━━	～～～～ ←━━	～～～～ ━━→	❖飛来軽減のため、隣接する防風垣や茶樹の管理を徹底する。
ミカンハダニ	やや少	△	━━	━━	～～～～ ←━━	～～～～ ━━→	❖ハダニは2葉に1頭程度に増えたら防除する。
ミカンサビダニ	－	△	━━ ←━━	━━ ━━	━━ ━━	━━ ━━→	

今月の防除

［使用時期］「収穫＊日前まで」を「＊日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

黒点病 そうか病	（予）ジマンダイセン水和剤 又は ペンコゼブ水和剤 みかん：[30日,4回] 黒点病400～800倍、そうか病400倍 みかんを除くかんきつ：[90日,4回] 黒点病600～800倍 等
かいよう病（中晩柑類）	（予）コサイド３０００［生育期,－］2,000倍 ＋ クレフノン［－,－］200倍
チャノキイロアザミウマ	アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤［前日,3回］1,000～2,000倍 等 ★ 農薬使用のポイント ◉ アルバリン、スタークル：コナカイガラムシ類(1,000～2,000倍)、ヤノネカイガラムシ・コナジラミ類(2,000倍)にも適用あり。
ミカンハダニ ミカンサビダニ	マイトコーネフロアブル［7日,1回］1,000～1,500倍 ダニカット乳剤２０ みかん：[14日,1回] 1,000～1,500倍 みかんを除くかんきつ：[60日,1回] 1,000～1,500倍 等 ★ 農薬使用のポイント ◉ サビダニ発生園ではダニカットを7月上中旬に使用。

薬剤耐性菌の発生を防ぐために　※この欄の記載農薬は、病害虫情報に掲載（予定）されているものです。

◉ QoI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いので、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
- ▸QoI剤（ストロビー、ファンタジスタ）
  - →単剤あるいはSDHI剤との混合剤（ナリア）の場合：1年1回
  - →その他の殺菌剤との混用の場合：1年2回

病害虫情報（H26・No. 4） …… 神奈川県農業技術センター

【ナ　シ】

［防除要否］◎:追加防除が必要　○:通常防除　△:必要に応じて防除　×:防除の必要なし
［発生・防除時期］ ━━━ 発生時期　～～～～ 多発時期　…… 感染時期　←──→ 防除適期

病害虫名	発生予想（平年比）	防除要否	発生・防除時期 7月 上	7月 中	7月 下	8月 上	防除のポイント
生育〈生育調査:生産技術部果樹花き研究課・豊水〉	並		《	果実肥大	期	》	
黒星病	やや少	○	━━ ←──→	━━ ←──→	━━	━━	
シンクイムシ類	並	○	━━ ←──→	━━	━━ ←──→	～～～～ ←──→	
カメムシ類	やや多	◎	━━ ←──	━━ 発生適時防除	━━	━━ ──→	❖園内をよく見回り、発生を確認したら防除する。
ハダニ類	やや少	○	━━	━━ ←──→	～～～～	～～～～	❖梅雨明け後に防除する。

今月の防除

［使用時期］「収穫＊日前まで」を「＊日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

黒星病	（予・治）ベルクートフロアブル［14日,5回］1,500倍 （予・治）ストロビードライフロアブル［前日,3回］3,000倍　等 ★ 農薬使用のポイント ◉ ベルクート:輪紋病・うどんこ病にも適用あり。収穫前日数に注意する。 ◉ ストロビー:輪紋病・うどんこ病(2,000～3,000倍)、炭疽病(2,000倍)にも適用あり。
シンクイムシ類 カメムシ類	アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤［前日,3回］2,000倍 アクタラ顆粒水溶剤［前日,3回］2,000倍 バリアード顆粒水和剤［前日,3回］カメムシ類:2,000倍 シンクイムシ類:2,000～4,000倍　等 ★ 農薬使用のポイント ◉ アルバリン、スタークル:アブラムシ類にも適用あり。 ◉ アクタラ:アブラムシ類(3,000倍)にも適用あり。 ◉ バリアード:アブラムシ類(2,000～4,000倍)にも適用あり。
ハダニ類	ダニゲッターフロアブル［前日,1回］2,000倍 カネマイトフロアブル［前日,1回］1,000～1,500倍　等

薬剤耐性菌の発生を防ぐために

※この欄の記載農薬は、病害虫情報に掲載（予定）されているものです。

◉ QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いので、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
- ▸QoI剤（アミスター１０、ストロビー、ファンタジスタ）
  →単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1年2回
- ▸SDHI剤（フルーツセイバー）
  →単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1年2回

病害虫情報 (H26・No. 4) …… 神奈川県農業技術センター

【ブドウ（大粒種）】

［防除要否］◎:追加防除が必要　○:通常防除　△:必要に応じて防除　×:防除の必要なし
［発生・防除時期］ ━━━ 発生時期　～～～～ 多発時期　…… 感染時期　←──→ 防除適期

病害虫名	発生予想(平年比)	防除要否	発生・防除時期 7月 上	7月 中	7月 下	8月 上	防除のポイント
べと病	並	○	～～～～ ←──→	～～～～ ←──→	～～～～ ←──	━━━ ──→	
黒とう病	やや多	○	～～～～ ←──→	━━━			
チャノキイロアザミウマ	やや少	○	━━━ ←──→	━━━ ←──→	～～～～ ←──→	～～～～	

今月の防除

［使用時期］「収穫＊日前まで」を「＊日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

べと病
黒とう病

（予）Ｚボルドー［－,－］べと病:500～800倍 ＋ クレフノン［－,－］100倍
（予・治）ホライズンドライフロアブル［21日,3回］べと病:2,500～5,000倍
黒とう病:2,500倍
（予・治）ランマンフロアブル[14日,3回］ べと病: 1,000～2,000倍　等

★ 農薬使用のポイント
- ホライズン:晩腐病(2,500倍)にも適用あり。
- 収穫前日数に注意して使用する。

チャノキイロアザミウマ

コテツフロアブル［14日,2回］2,000～4,000倍
アクタラ顆粒水溶剤［7日,2回］2,000倍　等

★ 農薬使用のポイント
- 収穫前日数に注意して使用する。

薬剤耐性菌の発生を防ぐために

※この欄の記載農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いので、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - ▸QoI剤(フリント、アミスター１０、ストロビー、ファンタジスタ)
    - →単剤あるいはSDHI剤との混用や混合剤の場合:1年1回
    - →SDHI剤以外の殺菌剤との混用や混合剤(ホライズン)の場合:1年2回
  - ▸SDHI剤(フルーツセイバー)
    - →単剤あるいはQoI剤との混用や混合剤の場合:1年1回
    - →QoI剤以外の殺菌剤との混用や混合剤の場合:1年2回

【カキ】

［防除要否］◎:追加防除が必要　○:通常防除　△:必要に応じて防除　×:防除の必要なし
［発生・防除時期］ ━━━ 発生時期　～～～～ 多発時期　…… 感染時期　←──→ 防除適期

病害虫名	発生予想(平年比)	防除要否	発生・防除時期 7月 上	7月 中	7月 下	8月 上	防除のポイント
生育〈生育調査:生産技術部果樹花き研究課・富有〉	並		《 果 実 肥 大 期 》				
うどんこ病	－	○	━━━ ←──	━━━ ──→	━━━ ←──	━━━ ──→	
カメムシ類	やや多	◎	━━━ ←──発生適時防除──→	━━━	━━━	━━━	❖園内をよく見回り、発生を確認したら防除する。
カキノヘタムシガ	－	○		━━━	━━～～	～～～━ ←──→	

今月の防除

［使用時期］「収穫＊日前まで」を「＊日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

うどんこ病

（予・治）ストロビードライフロアブル［14日,3回］3,000倍
（予・治）トリフミン水和剤［前日,3回］2,000～3,000倍
（予・治）トップジンM水和剤［前日,6回］1,000～1,500倍　等

★ 農薬使用のポイント
- ストロビー、トップジン:落葉病、炭疽病にも適用あり。

カメムシ類

ダントツ水溶剤［7日,3回］2,000～4,000倍
アクタラ顆粒水溶剤［3日,3回］2,000倍
スミチオン水和剤４０［45日,3回］800～1,000倍　等

★ 農薬使用のポイント
- ダントツ、アクタラ:アザミウマ類、カキノヘタムシガ、コナカイガラムシ類にも適用あり。
- スミチオン:フジコナカイガラムシ・カキノヘタムシガ(800～1,200倍)、イラガ類にも適用あり。また、早生品種の場合は収穫前日数に注意する。

カキノヘタムシガ

アタブロンＳＣ［14日,3回］4,000倍　等

★ 農薬使用のポイント
- アタブロン:ハマキムシ類にも適用あり。

病害虫情報（H26・No. 4） …… 神奈川県農業技術センター

【 チャ 】

［防除要否］◎：追加防除が必要　○：通常防除　△：必要に応じて防除　×：防除の必要なし
［発生・防除時期］ ━━━ 発生時期　～～～～ 多発時期　…… 感染時期　←──→ 防除適期

病害虫名	発生予想（平年比）	防除要否	発生・防除時期 7月 上	7月 中	7月 下	8月 上	防除のポイント
生育〈生育調査:北相地区事務所研究課・やぶきた〉	並		摘採期》		《三番茶萌芽期》		
炭疽病	やや少	○	━━	━━	～～～～ ←──	～～～～ ──→	
輪斑病・新梢枯死症	やや少	○					
チャノホソガ	やや多	○	～～～～	～～～～ ←──	～～～～ ──→	～～～～	
ハマキムシ類	並	○					
チャノミドリヒメヨコバイ	やや多	○	━━	━━	～～～～ ←──	～～～～ ──→	
チャノキイロアザミウマ	並	○					
カンザワハダニ	やや多	○	━━ ←──	━━ ──→	━━	━━	

今月の防除

［使用時期］「収穫＊日前まで」を「＊日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

炭疽病 輪斑病 新梢枯死症	【二番茶摘採後】 （予・治）ストロビーフロアブル［10日,3回］2,000～3,000倍 （予・治）オンリーワンフロアブル［7日,2回］ 炭疽病：2,000～3,000倍、新梢枯死症：2,000倍　等 ★ 農薬使用のポイント ◉ ストロビー：もち病(2,000倍)にも適用あり。 ◉ オンリーワン：もち病(2,000～3,000倍)にも適用あり。
チャノホソガ ハマキムシ類 　チャハマキ 　チャノコカクモンハマキ チャノミドリヒメヨコバイ チャノキイロアザミウマ	【二番茶摘採後】 カスケード乳剤［7日,2回］4,000倍 エスマルクＤＦ［発生初期,7日,－］ チャノホソガ、チャノコカクモンハマキ、チャハマキ：1,000倍 アドマイヤー顆粒水和剤［7日,1回］ チャノホソガ、チャノミドリヒメヨコバイ、 チャノキイロアザミウマ：5,000～10,000倍　等 ★ 農薬使用のポイント ◉ アドマイヤー：ツマグロアオカスミカメ(5,000倍)にも適用あり。 ◉ カスケード：ヨモギエダシャクにも適用あり。
カンザワハダニ	【二番茶摘採後】 バロックフロアブル［14日,1回］1,000～3,000倍　等

薬剤耐性菌の発生を防ぐために

※この欄の記載農薬は、病害虫情報に掲載（予定）されているものです。

◉ QoI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いので、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
▸ QoI剤（アミスター２０、ストロビー、ファンタジスタ）
→単剤の場合：1年1回
→その他の殺菌剤との混用の場合：1年2回

病害虫情報 (H26・No.4) …… 神奈川県農業技術センター

【 露地トマト 】

［防除要否］◎:追加防除が必要　○:通常防除　△:必要に応じて防除　×:防除の必要なし
［発生・防除時期］ ━━━ 発生時期　～～～～ 多発時期　…… 感染時期　←──→ 防除適期

病害虫名	発生予想(平年比)	防除要否	発生・防除時期 7月 上	7月 中	7月 下	8月 上	防除のポイント
葉かび病	やや少	○	━━━ ←──→	━━━	～～～～ ←──→	～～～～	
アブラムシ類	やや少	○	～～～～ ←──→	━━━	━━━	━━━	❖CMV等(モザイク病)を媒介。
オンシツコナジラミ	やや少	○	～～～～ ←──→	～～～～ ←──→	～～～～ ←──→	～～～～	
タバココナジラミ	並	○					❖TYLCV(黄化葉巻病)を媒介。
アザミウマ類	やや多	○					❖TSWV(黄化えそ病)を媒介。
☞栽培終了後の放置は、ウイルス病感染源となるので、速やかに片付けること。							
オオタバコガ	やや多	○	━━━	～～～～ ←──→	～～～～ ←──→	～～～～	❖極端に着色の早い果実には、幼虫が食入している可能性があるので捕殺。 ❖オオタバコガに関する注意報を平成26年5月30日に発表。

今月の防除

［使用時期］「収穫＊日前まで」を「＊日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

葉かび病	(予・治) アフェットフロアブル [前日,3回] 2,000倍 (予・治) アミスターオプティフロアブル [前日,4回] 1,000倍 等 ★ 農薬使用のポイント ◉ アフェット:すすかび病、灰色かび病、うどんこ病(2,000～4,000倍)にも適用あり。 ◉ アミスターオプティ:TPNとアゾキシストロビンを含む混合剤。TPNを含む剤には、ダコニール、プロポーズ等がある。アゾキシストロビンを含む剤には、アミスター２０があ ◉ アミスターオプティ:すすかび病、灰色かび病にも適用あり。
アブラムシ類 コナジラミ類 オンシツコナジラミ タバココナジラミ	アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤 [前日,2回] コナジラミ類:2,000～3,000倍 コルト顆粒水和剤 [前日,3回] 4,000倍 サンマイトフロアブル [前日,2回] コナジラミ類:1,000～1,500倍 等 ★ 農薬使用のポイント ◉ サンマイト:トマトサビダニ(1,500倍)にも適用あり。
アザミウマ類	スピノエース顆粒水和剤 [前日,2回] 5,000倍 コテツフロアブル [前日,3回] ミカンキイロアザミウマ:2,000倍 等 ★ 農薬使用のポイント ◉ コテツ:トマトサビダニにも適用あり。 ◉ スピノエース:ハモグリバエ類にも適用あり。
オオタバコガ	コテツフロアブル [前日,3回] 2,000倍 スピノエース顆粒水和剤 [前日,2回] 5,000倍 等

薬剤耐性菌の発生を防ぐために

※この欄の記載農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。

◉ QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
- ▸ QoI剤(アミスター２０、ファンタジスタ)
  →単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
  →SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ホライズン)の場合:1作2回
- ▸ SDHI剤(アフェット、カンタス)
  →単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
  →QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回

病害虫情報 (H26・No. 4) …… 神奈川県農業技術センター

【 露地キュウリ 】

［防除要否］◎:追加防除が必要　○:通常防除　△:必要に応じて防除　×:防除の必要なし
［発生・防除時期］ ━━━ 発生時期　～～～～ 多発時期　…… 感染時期　←──→ 防除適期

病害虫名	発生予想(平年比)	防除要否	発生・防除時期 7月 上	7月 中	7月 下	8月 上	防除のポイント
べと病	やや多	○	～～～～ ←──→	～～～～ ←──→	～～～～		❖肥料切れや成り込みによる草勢低下は、発生を助長させる。
うどんこ病	並	○	～～～～ ←──→	～～～～ ←──→	～～～～		
アブラムシ類	やや少	○	～～～～ ←──→	━━━	━━━		❖CMV等(モザイク病)を媒介。
オンシツコナジラミ	やや少	○	～～～～ ←──→	～～～～ ←──→	～～～～		
タバココナジラミ	やや多	○					❖CCYV(退緑黄化病)を媒介。
ミナミキイロアザミウマ	やや多	○	～～～～ ←──→	～～～～ ←──→	～～～～		❖MYSV(黄化えそ病)を媒介。
ミカンキイロアザミウマ	やや多	○					

☞栽培終了後の放置は、ウイルス病感染源となるので、速やかに片付けること。

今月の防除

［使用時期］「収穫＊日前まで」を「＊日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

べと病

(予・治) プロポーズ顆粒水和剤 [前日,3回] 1,000～1,500倍
(予・治) ランマンフロアブル [前日,4回] 1,000～2,000倍
(予・治) ライメイフロアブル [前日,4回] 2,000～4,000倍　等

★ 農薬使用のポイント

- プロポーズ:TPNとベンチアバリカルブイソプロピルを含む混合剤。TPNを含む剤にはダコニール、アミスターオプティ等がある。ベンチアバリカルブイソプロピルを含む剤にはベトファイター等がある。
- プロポーズ:うどんこ病・褐斑病(1,000倍)にも適用あり。

うどんこ病

(予・治) アフェットフロアブル [前日,3回] 2,000倍
(予・治) パンチョＴＦ顆粒水和剤 [前日,2回] 2,000倍　等

★ 農薬使用のポイント

- パンチョＴＦ:トリフルミゾールとシフルフェナミドを含む混合剤。トリフルミゾールを含む剤にはトリフミン等がある。

アブラムシ類
コナジラミ類
　タバココナジラミ
　オンシツコナジラミ
アザミウマ類
　ミナミキイロアザミウマ
　ミカンキイロアザミウマ

アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤 [前日,2回]
　アブラムシ類、コナジラミ類:2,000～3,000倍、アザミウマ類:2,000倍
コルト顆粒水和剤 [前日,3回]
　アブラムシ類、コナジラミ類:4,000倍
スピノエース顆粒水和剤 [前日,2回] アザミウマ類:5,000倍
サンマイトフロアブル [前日,2回]
　アブラムシ類、コナジラミ類:1,000～1,500倍　等

★ 農薬使用のポイント

- アルバリン、スタークル:ウリハムシ(2,000倍)にも適用あり。
- スピノエース:ハモグリバエ類、ウリノメイガにも適用あり。
- サンマイト:うどんこ病、ハダニ類にも適用あり。

薬剤耐性菌の発生を防ぐために

※この欄の記載農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - ▸ QoI剤(アミスター２０、ファンタジスタ)
    →単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
    →SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ファンベル、ホライズン)の場合:1作2回
  - ▸ SDHI剤(アフェット、カンタス)
    →単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
    →QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回

病害虫情報 (H26・No. 4) …… 神奈川県農業技術センター

【ナ　ス】

［防除要否］◎:追加防除が必要　○:通常防除　△:必要に応じて防除　×:防除の必要なし
［発生・防除時期］ ━━━ 発生時期　～～～～ 多発時期　…… 感染時期　←──→ 防除適期

病害虫名	発生予想(平年比)	防除要否	発生・防除時期 7月 上	7月 中	7月 下	8月 上	防除のポイント
うどんこ病	並	○	━━━ ←──→	～～～～ ←─	～～～～ ─→	～～～～ ←──→	❖日照不足、多肥、高温、過繁茂の状態になると蔓延しやすくなる。
ミナミキイロアザミウマ	やや多	○	～～～～ ←──→	～～～～ ←─	～～～～ ─→	～～～～ ←──→	
ミカンキイロアザミウマ	やや多	○					
オオタバコガ	やや多	○	━━━	～～～～ ←──→	～～～～ ←──→	～～～～	❖オオタバコガに関する注意報を平成26年5月30日に発表。
ハダニ類	やや多	○	～～～～ ←──→	～～～～ ←─	～～～～ ─→	～～～～ ←──→	
チャノホコリダニ	並	○					

今月の防除

［使用時期］「収穫＊日前まで」を「＊日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

うどんこ病	(予・治) アフェットフロアブル［前日,3回］2,000倍 (予・治) アミスターオプティフロアブル［前日,4回］1,000倍　等 ★ 農薬使用のポイント ◉ アフェット:灰色かび病、菌核病にも適用あり。 ◉ アミスターオプティ:TPNとアゾキシストロビンを含む混合剤。TPNを含む剤にはダコニール等がある。アゾキシストロビンを含む剤にはアミスター２０等がある。 ◉ アミスターオプティ:褐色腐敗病にも適用あり。
アザミウマ類 ミナミキイロアザミウマ ミカンキイロアザミウマ	アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤［前日,2回］2,000倍 ハチハチ乳剤［前日,2回］1,000～2,000倍 コテツフロアブル［前日,4回］2,000倍　等 ★ 農薬使用のポイント ◉ アルバリン、スタークル:アブラムシ類(3,000倍)、コナジラミ類(2,000～3,000倍)にも適用あり。 ◉ ハチハチ:アブラムシ類、コナジラミ類、マメハモグリバエ、チャノホコリダニ(1,000～4,000倍)、うどんこ病(1,000倍)にも適用あり。
オオタバコガ	コテツフロアブル［前日,4回］2,000倍 フェニックス顆粒水和剤［前日,3回］2,000～4,000倍　等 ★ 農薬使用のポイント ◉ コテツ:ハスモンヨトウにも適用あり。 ◉ フェニックス:ハスモンヨトウにも適用あり。
ハダニ類 チャノホコリダニ	コテツフロアブル［前日,4回］2,000倍 カネマイトフロアブル［前日,1回］ ハダニ類:1,000～1,500倍、チャノホコリダニ:1,000倍　等

薬剤耐性菌の発生を防ぐために

※この欄の記載農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。

◉ QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
- ▸ QoI剤(アミスター２０、ストロビー)
  →単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
  →SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ホライズン)の場合:1作2回
- ▸ SDHI剤(アフェット、カンタス)
  →単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
  →QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回

病害虫情報（H26・No. 4） …… 神奈川県農業技術センター

【ネ　ギ】

［防除要否］◎:追加防除が必要　○:通常防除　△:必要に応じて防除　×:防除の必要なし
［発生・防除時期］ ━━━ 発生時期　～～～～ 多発時期　…… 感染時期　←──→ 防除適期

病害虫名	発生予想（平年比）	防除要否	発生・防除時期 7月 上	7月 中	7月 下	8月 上	防除のポイント
さび病	－	○	～～～～ ←──	～～～～ ──→	━━━	━━━	
ネギアザミウマ	並	○	～～～～	～～～～ ←──→	～～～～	～～～～ ←──→	
シロイチモジヨトウ	－	△					

今月の防除

［使用時期］「収穫＊日前まで」を「＊日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

さび病

（予・治）アミスター２０フロアブル［3日,4回］2,000倍
（予・治）ベルクート水和剤［30日,3回］2,000倍　等

★ 農薬使用のポイント
- アミスター、ベルクート:黒斑病にも適用あり。

ネギアザミウマ
シロイチモジヨトウ

【生育期:株元散布】
ダントツ粒剤［3日,4回］ネギアザミウマ:3～6kg/10a
【生育期:散布】
ディアナＳＣ［前日,2回］2,500～5,000倍
ハチハチ乳剤［3日,2回］1,000倍
ボタニガードＥＳ［発生初期,－］ アザミウマ類:500～1,000倍　等

★ 農薬使用のポイント
- ダントツ、ディアナ:ネギハモグリバエにも適用あり。
- ハチハチ:さび病、ネギコガにも適用あり。

【抑制トマト】

［防除要否］◎:追加防除が必要　○:通常防除　△:必要に応じて防除　×:防除の必要なし
［発生・防除時期］ ━━━ 発生時期　～～～～ 多発時期　…… 感染時期　←──→ 防除適期

病害虫名	発生予想（平年比）	防除要否	発生・防除時期 7月 上	7月 中	7月 下	8月 上	防除のポイント
タバココナジラミ	並	○	～～～～ ←──	～～～～ （育苗） ──	～～～～ ──	～～～～ ──→	❖TYLCV（黄化葉巻病）を媒介する。 ❖育苗期のTYLCV感染防止策を徹底するとともに、育苗施設内外の除草を徹底する。 ❖0.4mm目合い以下の防虫ネットを、育苗施設の開口部に展張するか、育苗ベットにトンネル掛けする。
			…… 媒介（ＴＹＬＣＶ）━━━				

今月の防除

［使用時期］「収穫＊日前まで」を「＊日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

コナジラミ類
タバココナジラミ

【育苗期:株元施用】
アルバリン 又は スタークル粒剤［育苗期,1回:株元散布］1～2g/株
ベストガード粒剤［育苗期,1回:株元処理］1～2g/株
【育苗期:散布】
コルト顆粒水和剤［前日,3回］4,000倍
チェス顆粒水和剤［前日,3回］5,000倍　等

★ 農薬使用のポイント
- アルバリン、スタークル:ハモグリバエ類にも適用あり。
- ベストガード:アブラムシ類(1g/株)にも適用あり。
- コルト、チェス:アブラムシ類にも適用あり。

薬剤耐性菌の発生を防ぐために

※この欄の記載農薬は、病害虫情報に掲載（予定）されているものです。

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - ▸ QoI剤（アミスター２０、ファンタジスタ）
    →単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
    →SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤（アミスターオプティ、ホライズン）の場合:1作2回
  - ▸ SDHI剤（アフェット、カンタス）
    →単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
    →QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回

病害虫情報（H26・No. 4） …… 神奈川県農業技術センター

【 イチゴ 】

［防除要否］◎:追加防除が必要　○:通常防除　△:必要に応じて防除　×:防除の必要なし
［発生・防除時期］ ━━━ 発生時期　～～～～ 多発時期　…… 感染時期　←──→ 防除適期

病害虫名	発生予想（平年比）	防除要否	発生・防除時期 7月 上	7月 中	7月 下	8月 上	防除のポイント
炭疽病	－	○	━━━ ←──→	（採苗） ←──→	～～～～ ←──→	～～～～ ←──→	❖防除は、10～14日間隔でローテーション散布するが、発病が見られたら4～7日間隔程度に短縮する。 ❖発病した株への治療効果は期待できないので、発病株とその隣接株は速やかに処分する。
うどんこ病	－	○	━━━ ←──→	（採苗） ←──→	～～～～ ←──→	～～～～ ←──→	❖防除は、10～14日間隔でローテーション散布するが、発病が見られたら4～7日間隔程度に短縮する。

今月の防除

［使用時期］「収穫＊日前まで」を「＊日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

炭疽病

【育苗期】
（予）タフパール［育苗期～前日,－］2,000～4,000倍
（予）アントラコール顆粒水和剤［仮植栽培期,6回］500倍
（予）セイビアーフロアブル２０［前日,3回］1,000倍
（予）キノンドーフロアブル［育苗期,3回］500～800倍
（予・治）ベルクートフロアブル［育苗期（定植前）,5回］1,000倍
（予・治）ゲッター水和剤［収穫開始21日前まで,3回］1,000倍　等

★ 農薬使用のポイント
◉ ゲッター:ジエトフェンカルブとチオファネートメチルを含む混合剤。チオファネートメチルを含む剤にはトップジンM等がある。

うどんこ病

【育苗期】
（予）タフパール［発病前～発病初期,－］2,000～4,000倍
（予）サンヨール［前日,6回］500～1,000倍
（治）カリグリーン［前日,－］800～1,000倍
（予・治）トリフミン水和剤［前日,5回］3,000～5,000倍
（予・治）ベルクートフロアブル［育苗期（定植前）,5回］1,000倍　等

タフパールとの散布間隔　（メーカー技術資料より抜粋）

▸ セイビアー、キノンドー、サンヨール、カリグリーン、トリフミン:3日以上、アントラコール、ゲッター:7日以上、ベルクート:10日以上

薬剤耐性菌の発生を防ぐために　※この欄の記載農薬は、病害虫情報に掲載（予定）されているものです。

◉ QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
▸ QoI剤（アミスター２０、ストロビー、ファンタジスタ）
→単剤の場合:1作1回
→その他の殺菌剤との混用もしくは混合剤（ファンベル）の場合:1作2回
▸ SDHI剤（アフェット、カンタス）
→単剤の場合:1作1回
→その他の殺菌剤との混用の場合:1作2回

病害虫情報（H26・No. 4） …… 神奈川県農業技術センター

▼三浦半島地区野菜▼

【スイカ】

［防除要否］◎：追加防除が必要　○：通常防除　△：必要に応じて防除　×：防除の必要なし
［発生・防除時期］ ━━━ 発生時期　～～～～ 多発時期　…… 感染時期　←──→ 防除適期

病害虫名	発生予想（平年比）	防除要否	発生・防除時期 7月 上	7月 中	7月 下	8月 上	防除のポイント
つる枯病	並	○	～～～～ ←──→	～～～～ ←──→	━━━	━━━	❖降雨による土砂のはねかえりは感染、発病の原因となるため、台風の影響に注意。
炭疽病	並	○					
うどんこ病	並	○	━━━ ←──→	～～～～	～～～～ ←──→	～～～～	
アブラムシ類	やや少	○	～～～～ ←──→	━━━	━━━ ←──→	━━━	
アザミウマ類	並	○	～～～～ ←──→	～～～～	～～～～ ←──→	～～～～	
ハダニ類	並	○					

今月の防除

［使用時期］「収穫＊日前まで」を「＊日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

つる枯病 炭疽病	（予・治）ロブラール水和剤［前日,4回］つる枯病：1,000倍 （予・治）シグナムWDG［前日,3回］1,500～2,000倍　等 ★ 農薬使用のポイント ◉ ロブラール：菌核病にも適用あり。 ◉ シグナム：うどんこ病、菌核病（1,500倍）にも適用あり。 ◉ シグナム：ピラクロストロビンとボスカリドの混合剤。
うどんこ病	（予・治）アミスターオプティフロアブル［3日,4回］1,000倍 （予・治）ハチハチフロアブル［前日,2回］1,000倍　等 ★ 農薬使用のポイント ◉ アミスターオプティ：菌核病にも適用あり。 ◉ アミスターオプティ：TPNとアゾキシストロビンを含む混合剤。アゾキシストロビンを含む剤には、アミスター２０がある。TPNを含む剤には、ダコニール、プロポーズ、フォリオゴールド、ドーシャスフロアブル等がある。
アブラムシ類 アザミウマ類	ハチハチフロアブル［前日,2回］1,000倍 アドマイヤー水和剤［3日,3回］ アブラムシ類、ミナミキイロアザミウマ：2,000倍　等
ハダニ類	ダニサラバフロアブル［前日,2回］1,000倍　等

薬剤耐性菌の発生を防ぐために

※この欄の記載農薬は、病害虫情報に掲載（予定）されているものです。

◉ QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
- ▸ QoI剤（ストロビー、アミスター２０）
  - →単剤あるいはSDHI剤との混用、混合剤（シグナムWDG）の場合：1作1回
  - →SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤（アミスターオプティ、ホライズン）の場合：1作2回
- ▸ SDHI剤（アフェット）
  - →単剤あるいはQoI剤との混用、混合剤（シグナムWDG）の場合：1作1回
  - →QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合：1作2回

病害虫情報（H26・No.4） …… 神奈川県農業技術センター

▼三浦半島地区野菜▼

【カボチャ】

［防除要否］◎:追加防除が必要　○:通常防除　△:必要に応じて防除　×:防除の必要なし
［発生・防除時期］ ━━━ 発生時期　～～～～ 多発時期　…… 感染時期　←━━→ 防除適期

病害虫名	発生予想（平年比）	防除要否	発生・防除時期 7月 上	7月 中	7月 下	8月 上	防除のポイント
疫病	－	○	～～～～ ←━━→	～～～～			❖薬剤散布では、地表面に接する茎や果実に薬剤が付着するように散布する。
うどんこ病	並	○					

今月の防除　［使用時期］「収穫＊日前まで」を「＊日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

疫病 うどんこ病	（予・治）アミスターオプティフロアブル［7日,3回］1,000倍 （予・治）フォリオゴールド［7日,3回］疫病:1,000倍 （予・治）フェスティバルC水和剤［3日,3回］疫病:1,000倍　等 ★ 農薬使用のポイント ◉ アミスターオプティ、フォリオゴールド、フェスティバルC:べと病にも適用あり。 ◉ アミスターオプティ:TPNとアゾキシストロビンを含む混合剤。TPNを含む剤には、ダコニール、プロポーズ、フォリオゴールド等がある。 ◉ フォリオゴールド:メタラキシルMとTPNを含む混合剤。メタラキシルMおよびメタラキシルを含む剤には、リドミルゴールドMZ、リドミル銅がある。TPNを含む剤には、ダコニール、プロポーズ、アミスターオプティ等がある。 ◉ フェスティバルC:ジメトモルフと銅を含む混合剤。

薬剤耐性菌の発生を防ぐために　※この欄の記載農薬は、病害虫情報に掲載（予定）されているものです。

◉ QoI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
- ▸ QoI剤（ストロビー）
  - →単剤の場合:1作1回
  - →SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤（アミスターオプティ）の場合:1作2回

【メロン】

［防除要否］◎:追加防除が必要　○:通常防除　△:必要に応じて防除　×:防除の必要なし
［発生・防除時期］ ━━━ 発生時期　～～～～ 多発時期　…… 感染時期　←━━→ 防除適期

病害虫名	発生予想（平年比）	防除要否	発生・防除時期 7月 上	7月 中	7月 下	8月 上	防除のポイント
うどんこ病	やや多	○	～～～～ ←━━→	～～～～ ←━━→	～～～～		
つる枯病	並	○					❖多湿条件で発生しやすい。
べと病	－	○					

今月の防除　［使用時期］「収穫＊日前まで」を「＊日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

うどんこ病 つる枯病 べと病	（予・治）ベルクートフロアブル［前日,5回］うどんこ病、つる枯病:1,000倍 （予・治）フォリオゴールド［3日,3回］ うどんこ病,つる枯病:800倍、べと病:800～1,000倍　等 ★ 農薬使用のポイント ◉ ベルクート:菌核病にも適用あり。 ◉ フォリオゴールド:メタラキシルMとTPNを含む混合剤。メタラキシルMおよびメタラキシルを含む剤には、リドミルゴールドMZ、リドミル銅がある。TPNを含む剤には、ダコニール、ドーシャス、ブリザード、プロポーズ、アミスターオプティ等がある。

薬剤耐性菌の発生を防ぐために　※この欄の記載農薬は、病害虫情報に掲載（予定）されているものです。

◉ QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
- ▸ QoI剤（ストロビー、アミスター）
  - →単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
  - →SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤（アミスターオプティ、ホライズン）の場合:1作2回
- ▸ SDHI剤（アフェット）
  - →単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
  - →QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回

病害虫情報 (H26・No.4) …… 神奈川県農業技術センター

病害虫防除部　TEL　0463－58－0333
インターネット　http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f450002

※ 農薬に関する情報は、平成26年6月25日までの農薬登録情報に基づいて記載しています。

Ⅱ　技術情報(1)　　イネツトムシ（イチモンジセセリ）の防除適期

今年の第2世代幼虫の孵化最盛日は、県平均では「並」(7月23日頃)の予想です(表1)。ただし、地域によっては、「やや早」の予測日が出ていますので、近くの観測地点の予測日を参考にしてください。
※今後の気象変動によって予想日は変わる可能性があります。

[防除]

防除適期は、粒剤では孵化最盛日の5日前、その他の薬剤では孵化最盛日から5日後程度です。

各地点における孵化最盛日の予測は、表1のとおりです。薬剤の剤型にあわせて適期に防除を行ってください。

常発地では特に注意し、防除を行うようにしてください。

[防除薬剤]

薬剤名	倍率又は散布量(10a)	使用時期及び回数	有効成分ごとの総使用回数
パダン粒剤4	3～4kg	30日、6回	6回
パダンSG水溶剤	1500倍	21日、6回	6回
スミチオン乳剤	1000倍	21日、2回	3回(本田2回)

＊上記薬剤を飼料用米栽培に使用する場合は、次の対策に留意すること。
(1)飼料用米について、出穂以降(ほ場において出穂した個体が初めて確認される時点以降をいう。以下同じ。)に農薬の散布を行う場合には、家畜へは籾摺りをして玄米で給餌すること。
(2)籾米のまま、もしくは籾殻を含めて家畜に給餌する場合は、出穂以降の農薬の散布は控えること。

表1　有効積算温度によるイチモンジセセリ第2世代予測孵化最盛日（平成26年6月29日現在）

地点	2014年予測日z)	(平均比)	平均日y)	観測地点の概要
横浜市中区	7/20	(やや早)	7/23	横浜地方気象台
海老名市中新田	7/21	(やや早)	7/24	アメダス
小田原市扇町	7/25	(並)	7/25	アメダス
藤沢市辻堂	7/23	(並)	7/25	アメダス
平塚市寺田縄	7/20	(やや早)	7/24	農業技術センター水田ほ場
厚木市七沢	7/28	(並)	7/26	自然環境保全センター
県平均(6地点平均)	7/23	(並)	7/24	

z：5月5日を越冬世代の蛹化最盛日(平成12年度神奈川県農林水産関係試験成績成果資料)とし、有効積算温度684.94日度に到達した日を予測日とした(江村・内藤　埼玉農試研究報告第43号：36-43(1988))。
y：過去10ヶ年の予測日の平均値

病害虫防除部　ＴＥＬ　0463－58－0333
インターネット　http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f450002

Ⅱ　技術情報(2)

いつものチェック、忘れずに！（農薬危害防止運動実施中）

本年も、６月１日から８月３１日まで農薬危害防止運動を実施しています。あらためて、農薬の適正使用を徹底し、農薬による危害を未然に防止しましょう。

■ 農薬を使う前に

周辺の方への配慮

農薬を使用する前に、農薬使用の目的、散布する日時、使用する農薬の名称等を記したチラシや看板などで、近所に住んでいる方にお知らせするようにしましょう。

使用基準の厳守

農薬は「登録番号」があることを確認し、使用する前に、適用作物、使用量（希釈倍率）使用回数、使用時期など、ラベルに記載されている内容をもう一度確認しましょう。

防護装備の着用

農薬を散布するときは、防護装備（保護メガネ、マスク、防水性のある手袋、靴、防除衣）を必ず着用しましょう。農薬を調製するときも防護装備（保護メガネ、マスク手袋）の着用を忘れずに。

■　農薬を使った後に

防除器具の洗浄

農薬散布終了後は、残液による農薬残留事故を防止するため、防除器具のタンクやホースなどを十分に洗浄しましょう。

防除記録の記帳

農薬を使用したときは、年月日、場所、対象作物、使用した農薬、使用した量（希釈倍数）を必ず記録するようにしましょう。

農薬の保管・管理

農薬はカギをかけて保管しましょう。また、農薬を長期間置いておくと、容器の腐食や破損等により内容物が漏れ出すおそれがあります。年に一度は棚卸しをして、使わなくなった農薬や有効期限が超過した農薬は適切に処分しましょう。

なお、棚卸し等で使用禁止農薬のケルセンやベンゾエピン（マリックス）が見つかった場合は、現在メーカーが自主回収を行っていますので、農協や農薬販売店に御相談ください。

平成26年度農薬危害防止運動について
○神奈川県
http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f6554/p27219.html
○農林水産省
http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_tekisei/index.html

病害虫情報 （H26・No.4） …… 神奈川県農業技術センター

Ⅲ　7月の病害虫発生予報の内容とその根拠

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
水稲	いもち病 （葉いもち）	少	並	1) アメダスデータを元に計算した葉いもち感染好適日の出現は、6月23日現在、平年並。(±) 2) 気温は平年並、降水量は平年並か多い予報。(±)
	ヒメトビウンカ （縞葉枯病）	少	やや多 （多）	1) 巡回調査での発生は、平年並。(±) 2) 農協の早期栽培における調査では、ヒメトビウンカの発生はやや多い。(＋) 3) 予察灯での誘殺数は、平年並。(±) 4) ヒメトビウンカ越冬幼虫の保毒虫率は、4.9%である。(＋) 5) 気温は平年並、降水量は平年並か多い予報。(±)
	セジロウンカ	少	並	1) 予察灯での誘殺数は、平年並。(±) 2) 気温は平年並、降水量は平年並か多い予報。(±)
	ツマグロヨコバイ	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(＋) 2) 予察灯での誘殺数は、平年よりやや多い。(＋) 3) 気温は平年並、降水量は平年並か多い予報。(±)
カンキツ	黒点病 （果実）	少	やや少	1) 巡回調査では、春葉の発病は見られず、発生が平年より少ない。(－) 2) 県予察ほ(根府川)では、春葉、果実での発生が平年より少ない。(－) 3) 気温は平年並、降水量は平年並か多い予報。(±)
	そうか病	少	多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(＋) 2) 気温は平年並、降水量は平年並か多い予報。(±)
	かいよう病 （果実）	中	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(根府川)では、春葉、果実での発生が平年よりやや少ない。(－) 3) 気温は平年並、降水量は平年並か多い予報。(±)
	ミカンハダニ	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほでは、慣行防除園での発生が平年よりやや少ない。(－) 3) 気温は平年並、降水量は平年並か多い予報。(±)
	チャノキイロアザミウマ	少	並	1) 巡回調査では、寄生は見られず発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほでは、発生が平年よりやや多い。(＋) 3) 気温は平年並、降水量は平年並か多い予報。(±)
ナシ	黒星病	少	やや少	1) 巡回調査では、徒長枝での発病は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、徒長枝での発病は見られず、発生が平年並。(±) 3) 気温は平年並、降水量は平年並か多い予報。(±)
	アブラムシ類	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(－) 2) 県予察ほ(上吉沢)では寄生が見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 3) 気温は平年並、降水量は平年並か多い予報。(±)
	シンクイムシ類	－	並	1) 県予察ほ(上吉沢)のフェロモントラップへの誘殺数は、果樹ほ場が平年並(±)、葵山が平年よりやや多い(＋)。 2) 川崎市農業技術支援センター実施のフェロモントラップ(麻生区)への誘殺数は、平年並。(±)
	ニセナシサビダニ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、寄生は見られず発生が平年並。(±) 3) 気温は平年並、降水量は平年並か多い予報。(±)
	ハダニ類	少	やや少	1) 巡回調査では、寄生は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、寄生は見られず、発生が平年並。(±) 3) 気温は平年並、降水量は平年並か多い予報。(±)

※「発生量」…… 程度：甚＞多＞中＞少＞無　平年比：多＞やや多＞並＞やや少＞少
「予報の根拠」…… (＋)：多発要因　(－)：少発要因

病害虫情報 （H26・No.4） …… 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
ブドウ	べと病	少	並	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、発病は見られず発生が平年並。(±) 3) 気温は平年並、降水量は平年並か多い予報。(±)
	黒とう病	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(＋) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、発病は見られず発生が平年並。(±) 3) 気温は平年並、降水量は平年並か多い予報。(±)
	チャノキイロアザミウマ	少	やや少	1) 巡回調査では、被害は見られず発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、発生が平年並。(±) 3) 気温は平年並、降水量は平年並か多い予報。(±)
果樹全般	カメムシ類	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(＋) 2) 予察灯への誘殺数は、平年並。(±) 3) フェロモントラップへの誘殺数は、伊勢原が平年よりやや多く(＋)、南足柄が平年並(±)。 4) 県予察ほ(上吉沢)の予察灯への誘殺数は、平年よりやや多い。(＋) 5) 県予察ほ(根府川)の予察灯及びフェロモントラップへの誘殺数は、平年並。(±)
チャ	炭疽病	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発病は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 3) 気温は平年並、降水量は平年並か多い予報。(±)
	輪斑病 新梢枯死症	少	やや少	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並、降水量は平年並か多い予報。(±)
	チャノキイロアザミウマ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(＋) 2) 叩き出し調査では、落下虫数が平年よりやや少ない。(－) 3) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発生が平年より少ない。(－) 4) 気温は平年並、降水量は平年並か多い予報。(±)
	チャノミドリヒメヨコバイ	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(＋) 2) 叩き出し調査では、落下虫数が平年並。(±) 3) 県予察ほ(寸沢嵐)では、被害は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 4) 気温は平年並、降水量は平年並か多い予報。(±)
	チャノホソガ	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(＋) 2) 予察灯(山北)への誘殺数は、平年より多い。(＋) 3) フェロモントラップの誘殺数は、山北、県予察ほ(寸沢嵐)とも平年より多い。(＋) 4) 気温は平年並、降水量は平年並か多い予報。(±)
	ハマキムシ類	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 予察灯(山北)の誘殺数は、平年並。(±) 3) フェロモントラップの誘殺数は、山北、県予察ほ(寸沢嵐)とも平年並(±)。 4) 気温は平年並、降水量は平年並か多い予報。(±)
	カンザワハダニ	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発生が平年より多い。(＋) 3) 気温は平年並、降水量は平年並か多い予報。(±)

※「発生量」…… 程度:甚＞多＞中＞少＞無　平年比:多＞やや多＞並＞やや少＞少
「予報の根拠」…… (＋):多発要因　(－):少発要因

病害虫情報 （H26・No.4） …… 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
露地トマト	葉かび病	少	やや少	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年よりやや少ない。（－） 2) 気温は平年並、降水量は平年並か多い予報。（＋）
	アブラムシ類	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。（－） 2) 県予察ほ（上吉沢）の黄色水盤への飛来量は平年より少ない。（－） 3) 気温は平年並、降水量は平年並か多い予報。（±）
	オンシツコナジラミ タバココナジラミ	少 少	やや少 並	1) 巡回調査では、オンシツコナジラミの発生が平年よりやや少なく（－）、タバココナジラミの発生が平年並（±）。 2) 気温は平年並、降水量は平年並か多い予報。（±）
	アザミウマ類	中	やや多	1) 巡回調査では、アザミウマの被害が平年より多い。（＋） 2) 気温は平年並、降水量は平年並か多い予報。（±）
	ハモグリバエ類	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。（－） 2) 気温は平年並、降水量は平年並か多い予報。（±）
露地キュウリ	べと病	少	やや多	1) 巡回調査では、発生がやや多い。（＋） 2) 気温は平年並、降水量は平年並か多い予報。（＋）
	うどんこ病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。（±） 2) 気温は平年並、降水量は平年並か多い予報。（±）
	アブラムシ類	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。（－） 2) 県予察ほ（上吉沢）の黄色水盤への飛来量は平年より少ない。（－） 3) 気温は平年並、降水量は平年並か多い予報。（±）
	オンシツコナジラミ タバココナジラミ	少 少	やや少 やや多	1) 巡回調査では、オンシツコナジラミの発生が平年より少なく（－）、タバココナジラミの発生が平年よりやや多い（＋）。 2) 気温は平年並、降水量は平年並か多い予報。（±）
	ミナミキイロアザミウマ ミカンキイロアザミウマ	少 少	やや多 やや多	1) 巡回調査では、ミナミキイロアザミウマの発生が平年より多く（＋）、ミカンキイロアザミウマの発生が平年よりやや多い（＋）。 2) 気温は平年並、降水量は平年並か多い予報。（±）
ナス	うどんこ病	少	並	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年並。（±） 2) 気温は平年並、降水量は平年並か多い予報。（±）
	アブラムシ類	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。（－） 2) 県予察ほ（上吉沢）の黄色水盤への飛来量は平年より少ない。（－） 3) 気温は平年並、降水量は平年並か多い予報。（±）
	ミナミキイロアザミウマ ミカンキイロアザミウマ	中 中	やや多 やや多	1) 巡回調査では、ミナミキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマともに発生が平年よりやや多い。（＋） 2) 気温は平年並、降水量は平年並か多い予報。（±）
	ハモグリバエ類	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。（－） 2) 気温は平年並、降水量は平年並か多い予報。（±）
	ハダニ類	中	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。（＋） 2) 気温は平年並、降水量は平年並か多い予報。（±）
	チャノホコリダニ	少	並	1) 巡回調査では、被害は見られず、発生が平年並。（±） 2) 気温は平年並、降水量は平年並か多い予報。（±）
抑制トマト	オンシツコナジラミ タバココナジラミ	少 少	やや少 並	1) 露地トマトの巡回調査では、オンシツコナジラミの発生が平年よりやや少なく（－）、タバココナジラミの発生が平年並（±）。 2) 気温は平年並、降水量は平年並か多い予報。（±）

※「発生量」…… 程度：甚＞多＞中＞少＞無　平年比：多＞やや多＞並＞やや少＞少
「予報の根拠」…… （＋）：多発要因　（－）：少発要因

病害虫情報 （H26・No.4） …… 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
ネギ	ネギアザミウマ	甚	並	1) 巡回調査では、発生が過去5年の平均値並。(±) 2) 青色粘着トラップ調査では、誘殺数が過去6年の平均値並。(±) 3) 気温は平年並、降水量は平年並か多い予報。(±)
露地野菜全般	ハスモンヨトウ	－	やや少	1) フェロモントラップ調査では、誘殺数は平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(上吉沢)のフェロモントラップへの誘殺数は平年よりやや少ない。(－) 3) 気温は平年並、降水量は平年並か多い予報。(±)
	オオタバコガ	－	やや多	1) フェロモントラップ調査では、越冬世代の誘殺数は平年より多い。(＋) 2) 県予察ほ(上吉沢)のフェロモントラップへの誘殺数は平年より多い。(＋) 3) 巡回調査では、トマトでの発生が平年よりやや多く(＋)、ナスでの発生が平年よりやや少ない(－)。 4) 気温は平年並、降水量は平年並か多い予報。(±)
三浦半島地区野菜				
つる枯病	(スイカ) (メロン)	少 少	並 並	1) 巡回調査では、スイカ、メロンともに発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並、降水量は平年並か多い予報。(＋)
炭疽病	(スイカ)	少	並	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並、降水量は平年並か多い予報。(＋)
うどんこ病	(スイカ) (カボチャ) (メロン)	少 中 少	並 並 やや多	1) 巡回調査では、スイカ、カボチャでは発生が平年並(±)、メロンでは発生が平年よりやや多い(＋)。 2) 気温は平年並、降水量は平年並か多い予報。(±)
アブラムシ類	(スイカ)	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並、降水量は平年並か多い予報。(±)
アザミウマ類	(スイカ)	中	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並、降水量は平年並か多い予報。(±)
ハダニ類	(スイカ)	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並、降水量は平年並か多い予報。(±)

※「発生量」…… 程度:甚＞多＞中＞少＞無　平年比:多＞やや多＞並＞やや少＞少
「予報の根拠」…… (＋):多発要因　(－):少発要因

Ⅳ　7月の気象予報（気象庁 地球環境・海洋部6月25日発表3か月予報）

〈天　　気〉

期間の前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多く、期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。降水量は、平年並または多い確率ともに４０％です。

〈要素別予報〉

	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気　　温	30%	40%	30%
降　水　量	20%	40%	40%
日照時間*	40%	40%	20%

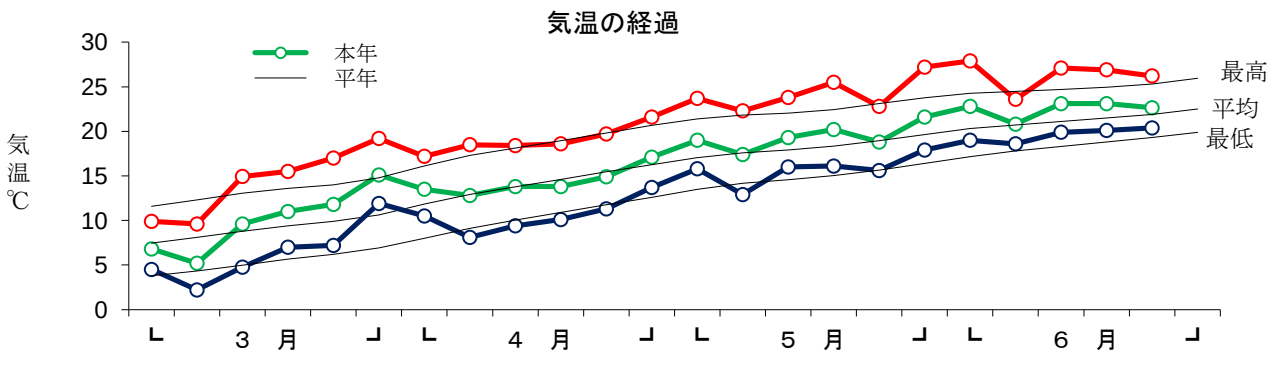
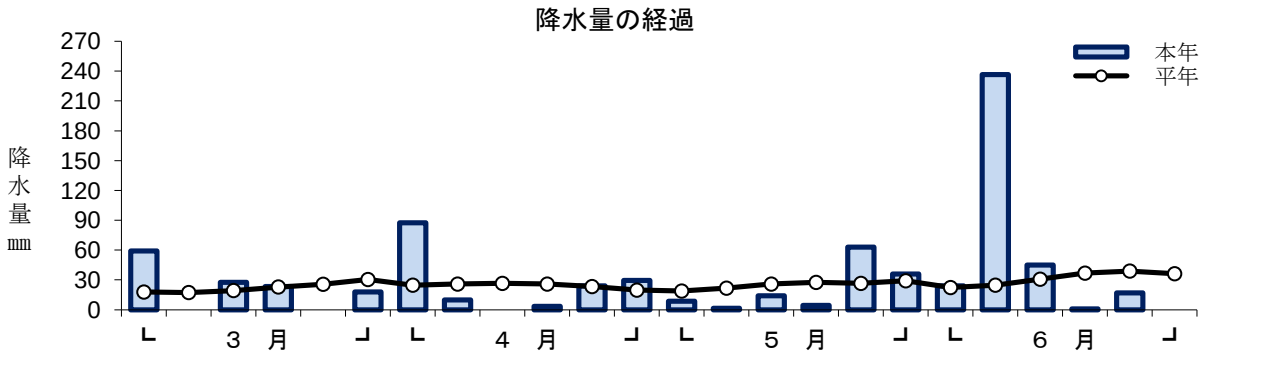
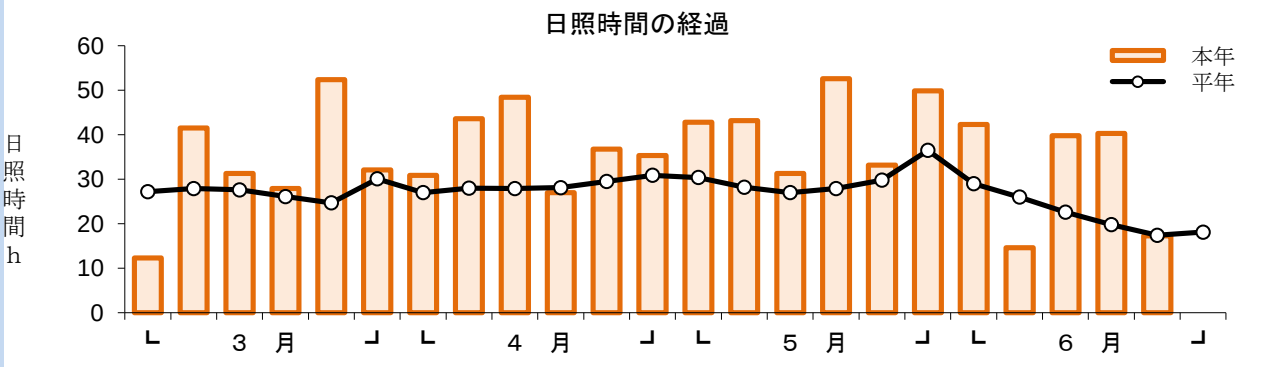
＊6月19日発表1か月予報による

〈気象の経過〉［観測地　横浜地方気象台］

6月第5半旬まで

気温は、1,3～5半旬は平年より高く、2半旬は平年並だった。

降水量は、1半旬で平年並、2～3半旬で平年より多く、4～5半旬は平年より少なかった。

日照時間は、1,3～4半旬は平年より多く、2半旬は平年より少なく、5半旬は平年並だった。

＊梅雨入り :6月5日ごろ（平年6月8日）